全姉連会報

10 Zehn

全姉連会報 第１０号

【姉ゲー】

『あねいも2H's(ハッピーステージ)』(bootup)

あの名作がファンディスクで再び。今度ももちろん甘甘。

『姉・SUMMER!』(あるてみす。)

姉御肌のお姉さまと一夏の同居生活。

『あねあね
～許して!お姉ちゃんたち、ボクのおち○ち○ダメになっちゃう!』(Norn)

『姉は教師で新人メイド～ラブラブ孕ませ性活』(スワンマニア)

新興の低価格ブランド２社の姉ゲー対決。早い、安い、萌える？

【姉コミック・成人向】

椿十四郎『実姉双葩ルート』

“姉妄想のプロ”が送る姉コミック。

柚木N'『めちゃ姉!』

おねーさんにいじられ挑発され続けてボクはもう…

七瀬瑞穂『姉づくし』

Ｓっ気のあるお姉さんにゾクゾクしたいときには？

狩野蒼穹『姉るせっくす』

ゆるゆるだっていいじゃない！姉弟まったりＨコミック。

【姉コミック・一般向】

カトウハルアキ『夕日ロマンス』

弟に恋するお姉ちゃん。「アタシが愛しているのは、弟でございます」

表紙 RENNOS/全ママ連のキョルルフ砲による、『ブラスレイター』よりアマンダお姉ちゃん(CV:伊藤静)。

「原稿料はアマンダお姉ちゃんのえっちな抱き枕だ」と言うので、うちの姉を売り渡すようでイヤだったのですが、やむなく買って送り付けました。彼に絵を描いてもらいたい時はえっちな抱き枕を献上するといいかも知れません。今回、ゲスト原稿も描いてもらいました。ありがとうございます。表紙の背景の文章といい、タマ姉に持たせている小道具といい、彼は別に産科医ではなかったはずなのですが。

【いつものお約束】

全姉連のレビューは「姉萌え」至上主義。絵や文章の出来不出来は二の次です。

あねいも2H′s(ハッピーステージ)

～もっとHにステップアップ～

メーカー	bootup
ジャンル	続・姉妹 LOVE エロアドベンチャー
発売日	2008 年 3 月 28 日

■甘党な弟待望の…

2007 年 4 月に発売された『あねいも２』のファンディスクです。

『あねいも２』[1]は、お隣でありながら家族同然の付き合いのある霧島姉妹、突然同じ屋根の下に住む事になった白川姉妹の「あね･いも」二組との生活を描いた秀作。LOVE エロをキーワードに掲げ、甘甘純愛とエロを両立させた高いストーリー性ともさることながら、お隣の姉・みぃ姉の甘えさせ上手なお姉さん行動が弟達の間で大人気を博したのです。みぃ姉はもちろんのこと、ほかの３人も個性的。それぞれ一度結ばれてからは、濃厚な愛の営みを繰り返し見せつけられ、純愛派プレイヤーには特に大きな支持を得た作品でした。

今回登場した本作は、４人のヒロインのアフターストーリー的な中編がそれぞれ用意された上、攻略対象でなかったメガネ副会長・加曽利先輩と、友人の姉・和美姉さんのルートも追加、さらにボリュームのあるハーレムルートまで完備。もはやこれはファンディスクではなく､『あねいも２．５』の勢い。総裁の個人的趣味から言わせてもらうと、和美姉さんの攻略対象化は非常に大きい！男友達の姉、しかもその弟は姉に頭が上がらない。どこかのアイアンクローが得意なお姉ちゃんみたいな立ち位置じゃありませんか。

登場ヒロイン達の雰囲気はそのままに、明るくラブラブな展開だけが濃縮されたこの２H’ｓ、本編をプレイしたことがあるのに、こちらはプレイしないのはもったいないとしか言いようのない素晴らしい出来になっていました。

■キャラクター

・霧島深月

弟同然の主人公を可愛がり､甘えさせる事が何より大好きなお姉ちゃん。内に秘めたブラコンパワーは計り知れないのに、妹の皐月やクラスメイトにブラコン指摘されると照れてあたふたするお約束も健在でした。

今回用意されたみぃ姉ルートは、彼女が中学生だった頃の話が中心。主人公がどうしておっぱいっ子、正確に言えばみぃ姉のおっぱい大好きっ子になってしまったのかを回想するもの。まだ中学生のみぃ姉が体を張って甲斐甲斐しく弟の看病をする慈愛に満ちた姿は、下手をするとＨシーンよりも鼻血モノ。既に姉としての強い自覚を持っている中学生みぃ姉が、どんな看病をしてくれるのかは、プレイしてからのお楽しみ。一般人なら大したことのないシーンでも、ブラコンお姉ちゃんが大好きな貴弟なら大興奮間違いなし。

[1] 全姉連会報第７号にて批評。なお､『あねいも』（第３号にて批評）と『あねいも２』の間にストーリーのつながりはなく、それぞれ独立した作品です。

・霧島皐月

地位は妹とはいえ、同級生で、遊び友達のような感覚の皐月。勝手に主人公の部屋に上がり込んでくる遠慮のない関係はそのまま。お色気と下ネタで主人公をからかうオヤジさも相変わらずでした。

「ラブリーな皐月ちゃんの生パンツでーす！今日は特別にマンチラサービスもつけたげるね。ほれほれ、チラッとな」。

皐月ちゃん下品すぎ！（だがそれがいい）

・白川沙織

原作では、最初心を許してくれなかった沙織さん。本作では誰のルートでも好感度は上がっているので、彼女に関してもツンデレ的魅力が基本になっていました。

沙織さんルートは、とりわけリミッターなしで愛情値 MAX。せっせと子作りに励む熱い熱いシーンが続きます。おめでたと相成った後もとどまるところを知らない二人。お腹が大きくなっても主人公の求めに応える沙織さんは人が良すぎると思います。主人公はお腹の子に謝れ。

・白川唯

妹キャラ色の強い唯ちゃんは、ファンディスクになっても「お兄さん、お兄さん」と妹らしさをアピール。さすがに姉原理主義の総裁を落とすほどではありませんでしたが。

精神的、外見的に大人になった面の描写もあり、その点は楽しませてもらいました。

・平沢和美

ファンディスクの目玉の一つ、和美お姉様です。親友・優輝がガクガク震えるほど畏れ敬っている姉。姉持ちの友人、その友人は姉に頭が全く上がらない、といえばタマ姉×雄二ペアを思い出しますが、あんな感じの姉弟を見るのが好きなら平沢姉弟もきっと気に入るはず。

和美お姉様は主人公の事を「少年」と呼び、ボーイッシュな頼もしささえ感じる姉御肌。実は女の子らしいか弱い面も…なんてのもありません。一本筋の通ったカッコよさがたまらない。

「ふっ、それじゃな。おやすみ、少年」
和美さんはさっと右手を挙げると、くるっと踵を返して、ホテルの方に足早に歩いていってしまった。

・加曽利優子

カミソリ優子の隠れたあだ名を持つ、紀律に厳しい生徒会副会長。

前作で一騒動あった時の確執は完全に解消された状態で、かといって最初から甘甘ではなく、メガネ委員長らしい堅物さをまとって登場。ほろっと見せる弱い部分を抱き締めてあげればハッピーエンドが待っています。

■たっぷりLove エロ延長戦

和美お姉様に攻略されたいというファンの声に応えた上、もともと十分に可愛がってもらっていたみぃ姉と沙織さんからも再び愛し愛される充実の続編でした。原作未プレイなら、この際セットでどうぞ！

姉・SUMMER!

メーカー	あるてみす。(同人サークル)
ジャンル	従姉弟のおねえさんに勉強を教えてもらったり色々甘えちゃったりするADV
発売日	2008年8月16日

落ちこぼれ気味の主人公・山内祐太には好きな子がいた。しかし、勇気のない主人公は告白することができないでいた。

そんなこんなで月日は流れていき、受験シーズンの前哨戦・夏休みの到来。主人公は分相応に普通の大学に行こうと思っていたがあこがれの子と離れたくない気持ちは募る一方。そこで、好きな子と同じ大学を目指すことにするのだが、その子は日本有数の進学校に行くらしい。

そのために主人公は必死に勉強しようと誓い、勉強するのだがはかどらない。そんな主人公を見かねた母親が提案する。

「従兄弟のお姉さんに教えていただいたら？」

こうして、主人公のひと夏が始まった。

■同人姉ゲーでも

会報では初めての同人ゲームの紹介となる本作『姉・SUMMER！(ねえ・さまー)』。一昔前までは、良くできた作品でもやはり同人ゲームと分かるのがほとんどでしたが、最近は実態が商業ベースの作品でも、流通は同人ゲームに乗せるパターンが多く、メロンブックス専売だからと言って同人と同じレベルでは語れない作品です。

本作は、すめらぎ琥珀先生の魅力的なお姉ちゃんデザインと、お姉さん感たっぷりのキャラ設定で、一般の姉ゲーと全く遜色ない１本となっていました。

■従姉宅で夏の同居合宿!?

主人公は来年に受験を控えた学園の生徒で、時期は夏休み。

成績に自信がなく、むしろ落ちこぼれかかっている主人公は、半ば押し出されるように、独り暮らししている従姉・圭ねぇの家へ受験勉強合宿へ向かう、というストーリー。

…勉強するために、従姉の家へ？女一人・男一人の環境に？しかも、女性年上・男性年下の関係で？特技は罵倒で、でも甘えてくると断り切れないようなお姉さんに家庭教師してもらうと？開放的な夏という季節に？ああ駄目だ、全然駄目だぜ！こやつ、ハナっから勉強する気ゼロに違いない。従姉にいじられなじられ、さんざんもてあそばれて、最後は美味しく食べられるつもり満々だったはず。従姉の家に泊まりがけで行くっていうのは、そういうことを意味するもんだ！などと思いながらプレイを続けてみると、実際は少々違ったので（悪い意味ではなく)、その点を補足。

主人公が従姉に会うのは数年ぶりのこと。思い出に残る圭ねぇのイメージは、どちらかというと畏怖の対象。従って、圭ねぇの家に行く時も、心底嫌がってまではいなくとも、何となく気が進まない、という温度なのです。もっとワクワクしたっていいんじゃないの？とは思いますが、圭ねぇの持つ威厳を印象づけるにはある程度主人公に怖がってもらう必要もあるので、ここは調整の難しいところ。そんなビクついた心理もあって、性的欲求を発散しようといった下心もほとんどなく、大きな胸を見てムラっと来てしまう程度でした。それだけに、主人公が従姉と一線を越えた後に変な自信

を付けて、時おり従姉に対して調子に乗る態度を見せるのは違和感もあって残念。ちょっと粋がってやんちゃをし、でも最後は倍返しされて凹むくらいがこの作品にはちょうどいいと思うのは、筆者がMっ弟なだけだからではないハズ。もう少し弟としての分をわきまえた男なら、良い友達になれそうだったのになぁ。

■キャラクター

・東出 圭（従姉）

弟分にあたる主人公が少々残念だった反面、従姉の圭ねぇはスゴいお姉さま！

基本的には常識人で良く出来た女性。ただし、「姉は偉い、弟[2]は姉の言うことを素直に聞くもの、守らない弟は即刻制裁」のポリシーを持ち、主人公を翻弄する。姉は絶対の存在であり、弟は黙って付いて来ればいいのよ、といった口調が基本。

「折角だ、今夜は出前を取るぞ。何が食べたい？」
「中華」
「中華か。でも、私は寿司を食べたいから却下だ」
「じゃあ、聞かないでよ！！」
「いや、一応、人にも意見を聞くのが礼儀であろう？」
「それを言ったら、聞いておいて意見を速攻で無下にするのは礼儀違反じゃない？」
「祐太は弟だからな。年下の意見は大概通らないものであろう。年上を敬え」

男気さえ感じさせる圭ねぇは、この後酔った勢いもあって、風呂に付いて来いと弟を連れて風呂場へ。おおっ、これはなし崩しに押し倒されるパターンですね、了解了解。と思ったら、火照った顔で

「わ、私だって人並みの女だ……多少は異性の体に興味がある……」

と湯船から主人公をチラチラ。さっきまでとのギャップもあって、このお風呂でのもじもじした仕草は新たな興奮を誘います。普段は年上としての自信と余裕を誇る圭ねぇも、Hに関してほとんど初心者で、お姉さんが手取り足取り…な展開は期待すべくもありません。しかし、手慣れていない分、精一杯な気持ちが伝わってくる良い仕上がりになっています。

「大丈夫だ。責任は全て……とる。姉としての務めだ。それに、弟の幸せのため……なら私は……構わない、どうなろうともなっ」

圭ねぇは、時に横暴にも聞こえる言動で主人公を扱いながら、実は心の底で弟を想っていたことに気付いてしまうのです。しかし、弟には既に意中の女性がいて、その事を聞かされている圭ねぇは叶わぬ想いと諦め、切ないため息を漏らす。弟の想いが叶った時のためのデートの練習と称して街へ、海へ繰り出す圭ねぇの心中はいかばかりか…。

もちろん最終的には圭ねぇと結ばれるエンディングがあります。ありますが…姉弟脱却型でした。そりゃもう容赦なく。恐れ多い年上お姉さまであればあるほど、姉弟脱却してタダの彼氏彼女になってしまったときのがっかり感も大きくなるもので、実にもったいないオチになってしまいました。

■マイナスはあるものの…

威厳と強権を持ったカッコイイお姉さん好きにはたまらない圭ねぇ。時折見せる柔らかい一面も含めて愛すべき、いや、愛されるべきお姉さんです。細かいことには目を瞑ってでも楽しむ価値はあると見ました。

[2] 圭ねぇと主人公祐太は従姉弟の関係。でも、作中ではほとんど姉と弟として表記されています。

あねあね

～許して！お姉ちゃんたち、ボクのおち○ち○ダメになっちゃう！

メーカー	Norn
ジャンル	アドベンチャー
発売日	2007 年 11 月 2 日

前野俊は進学を控えた時期に両親の海外赴任が決定したために、田舎に住む従姉の円、光莉たちの家から学校に通う事になる。

円は教育大学に通っており、光莉は俊と同じ高校の３年生。二人は共に幼い頃から主人公に強い好意を抱いており、今もそれは変わらなかった。俊が引っ越してくると、円は彼をからかい、弄り、光莉は新妻のように甲斐甲斐しく世話を焼く。

過剰な愛情表現に俊が困惑する中、円が教育実習生として彼の高校に赴任。当然のように円と光莉の争いは激化。ついに、円が教育実習中の２週間、料理や勉強、エッチ等様々なカテゴリーで姉妹対決することになり、どちらが俊に相応しいか決定しようという事になる。

こうして円と光莉の過剰な愛が巻き起こすドタバタでエッチな、俊を巡る争いの火蓋が切って落とされるのだった。

■Norn の低価格レーベルから

Ｎｏｒｎは 2007 年の夏頃から出だしたメーカーで、基本価格はダウンロード版 2800 円、パッケージ版 3000 円の低価格路線を歩んでいます。

攻略対象のヒロインは１～２人に収め、続く時はほぼ毎月のように新作を発売しているメーカーなので、プレイしたことはなくとも目にした事はある弟さんも多いでしょう。というのも、タイトルやサブタイトルに「姉」「お姉ちゃん」と付けられていることがしょっちゅうだから。『幼馴染のお姉ちゃんは専属メイド』『(サブタイトル) お姉さんの中でいーっぱい気持ちよくなってね』『(サブタイトル) 姫様とお姉ちゃんの懐妊レース』等々。

その中でも、特に注目すべきタイトルは、本作の『あねあね』。４文字のひらがなだけで、主な内容及びヒロイン数が分かる仕様。はい。お察しの通り、２人の姉に囲まれて暮らすゲームです。正確には従姉の姉妹ですけれども。

■短さ、退屈さがマイナスに…

両親と離れて暮らす事になった主人公・俊は、幼い頃に自分を可愛がってくれた従姉の住む家に引っ越す事になる、との出だしで始まります。

従姉は二人、姉の円と妹の光莉（ひかり）の姉妹で、もちろん主人公の事を弟同然に思っており、可愛がる気満々で主人公をお出迎え。

久々の再会。しかし、従姉と従弟で懐かしがる暇もなく、円姉は初日から主人公を半ば手篭めに、光莉姉も引越初夜から優しく誘惑してくるのは、低価格帯作品の尺の短さから来る宿命か。同居ではなかった従姉弟が再会したという設定なら、お互いに変わった部分・変わらない部分を確かめ合って、小さい頃の思い出話でも差し挟んで、赤の他人じゃないんだということを強調してくれるとグッと良くなるところ。低価格作品一般に言えることですが、どこかでコストを節約しなければならないとしても、掴みの部分で端折りすぎるのはもったいな

いように思います。

ゲームの進行は、一つのイベント（例えば、昼休みをどちらの姉と過ごすか）ごとに、姉妹２人の攻防戦→「当然私よね？」「だめよ、私と一緒よね？」の選択肢→選んだ方となし崩しにHシーン、の繰り返しです。

姉２人の設定である以上、どちらかを選んでいくゲームなのは仕方ないとしても[3]、ワンパターンが延々続くのは少々退屈。それでも、個々のイベント会話がブラコンお姉ちゃん要素全開…なら良かったんですが、主人公の劣情を煽ってHに持ち込もうとするセリフが先行してしまっており、興が醒めます。「この弟（こ）ったら、なんて可愛いのっ！？」の気持ちがどうにも止められなくなった結果、弟を押し倒してしまうのが正しい姉の姿。Hシーンは単なる性欲のはけ口ではなく、姉弟愛を表す場であるべきとのポリシーは、残念ながらここでは通用しなかったようです。

なお、２人の姉は互いに対抗心を燃やし、あの手この手で主人公にアタックするライバル同士なのですが、根っこの部分では信頼しあっている仲良し、、、だったら良かったんですけどね。いまいち…（以下略）

■キャラクター

・清水円（従姉の長女）

円お姉ちゃんは大学４年生。自宅では上の姉、主人公の通う高校では教育実習生として登場します。

ノリの良い、サバけたお姉ちゃんで、年上の余裕と大人の魅力で主人公をいじり可愛がってくれるタイプ。いたずら好きな面もあり、弟をからかって困らせる困ったお姉ちゃんです。

「ふふふ……かっわいいんだぁ～！」
「だーって！俊クンッたら、いちいち反応が可愛いんだもん♪意地悪したくなっちゃーう！」
「ちゃんと我慢出来たわね。俊クンはいい子だわ」

主人公をほめる時、「いい子」と言ってくれる姉が好き。

・清水光莉（従姉の二女）

光莉お姉ちゃんは同じ学校に通う高校３年生。円姉とは好対照な、良妻賢母型の優等生お姉ちゃん。円姉が太陽なら、光莉姉は月の趣。

「お姉ちゃん、コワイ顔しないで！俊ちゃんが怯えてるでしょ！」
「もおっ！お姉ちゃん、暴力はやめてよっ！俊ちゃんが私を選んだんだから、文句いわないのっ！」

主人公が円姉にからかわれている所に割って入り、可愛い私の弟をいじめないで、と庇うシーン多数。

もちろん、その後には、添い寝してくれたり、さらにその先も用意されています。

■全体的にパワー不足…

「許して！お姉ちゃんたち、ボクのおち〇ち〇ダメになっちゃう！」のサブタイトルから、かなりハードなプレイで精根尽き果てさせられちゃうの？との予想もしましたが、特段濃厚でもなくて拍子抜け。もっとブラコン力を上げてもらわないと姉属性の弟を唸らせるような作品にはならないなぁ…と思った１本でした。

[3] 時々、選ばれなかった姉の方のセリフが痛い。（嗚咽を漏らしながら）「自分の選択に責任を取らないと…ダメだよ…私なら大丈夫だから…早く行ってあげて」のような。

姉は教師で新人メイド

ラブラブ孕ませ性活

メーカー	スワンマニア
ジャンル	アドベンチャー
発売日	2008 年 9 月 26 日

ごく普通の家庭で、なんの問題もなく育った主人公・青山知樹。ある日彼は、父親の仕事の関係上海外へ引っ越すことになる。

しかし日本から離れたくない知樹は、姉の那波 （なな み）とふたりで日本に残ることに。

ふたりだけでは心配という親の意見から、父親の知り合いの家にやっかいになるふたり。だが、そこで待っていたのは驚くほど大きなお屋敷だった。

そこで那波が「お世話になるお礼にメイドの仕事をしたい」と言い出し、メイドの仕事をすることに。

彼女は美人なメイドさん･小湊 紗葉 （こみなと さは）に指導され、身の周りの世話からエッチな指導までもされて……

主人公は戸惑いながらも、新しい生活に身を投じることになるのだった。？

■スワンの低価格作品の実力は

スワンマニアというブランドは、ここ最近低価格帯のソフトを精力的に発売しているところで､特に 2008 年の７月から３か月もの間、

『となりのお姉さんは巨乳ＯＬ』

『人妻お姉さんとツンデレ幼なじみの孕んだ関係』

『姉は教師で新人メイド』

と､「姉」の文字が踊るタイトルを毎月出し続ける姉ゲーフィーバー状態になっていました。

過去に同ブランドで妹ゲーを出したこともあったので、姉専業ブランドという訳ではないようですが、詰まるところ、製作サイドにお姉ちゃんブームが来たってことですね。良い事です。

そんな姉萌えバーサク状態のスワンマニアが放った、義姉でも従姉でもない、れっきとした「お姉ちゃん」が登場する本作をプレイしてみました。

■メイドものでも立派な姉ゲー

両親の突然の海外転勤に反対し、日本に残ることにした那波お姉ちゃんと主人公の二人は、父の知り合いのお屋敷に居候することになる…との状況から話はスタート。

お屋敷では、自分たちがお世話になるばかりでは申し訳ないからと姉自ら進んでメイドさん志願をします。嫌々させられている訳ではなく、むしろメイドさんのお仕事を楽しんでいる風もあるので、後ろ暗さはゼロで安心[4]。

那波姉はもともと人並みに家事をこなせるしっかり者のお姉ちゃんですが、メイドの心得は別物。先輩メイドの紗葉さんに指導を受けながら、なぜか居候なのにご主人様扱いの弟に色々とご奉仕を…。

姉には忠実な僕（しもべ）たることをモットーに生きる弟諸君ならば、お姉ちゃんに「ご主人様」と呼ばせたり、あまつさえ姉に弟のご奉仕までさせるのは、どうしても違和感が先行してしまうかもしれません。総裁自身もまさにそう感じていた矢先に、主人公がこんな事を心の中で叫びだしたのです。

[4] そもそも､作品全体を通して鬱展開は全くありません。

姉が弟を『ご主人様』と呼ぶなんて……なんて、不健康な！

不健康！そうなんだよ！今、君と両手で猛烈に握手したい気持ちだ！この弟、姉属性従順派の気持ちをよく分かってやがる。これ、なかなかできない表現だと思います。

いつも通りにしようよと訴える弟に対し、那波姉は、

駄目なのよ。『姉弟といえど、メイドでいる間は上下関係を守るように』って、紗葉さんにキツく言われてるから。

考えようによっては、こんな経験滅多にできないんだし、おままごとみたいに楽しんじゃおう。ね？

と、至って前向き。弟は調子に乗らず、姉も「今だけ特別よ？」の限定サービス。特殊な状況でも、姉弟のあるべき最低限のラインは守る描き方には好感が持てました。

メイド役ばかり目が行ってしまいましたが、お姉ちゃんは学校の担任教師でもあります。学校では教師と生徒の関係を維持しつつも、ちょっとだけお姉ちゃんと弟らしい雰囲気を残すバランスも上手。

終盤のエピソードは、ありがちながらも姉弟モノらしい話が用意され、姉ゲー感を味わえる締めくくりとなっていました。

■キャラクター

・ 青山那波（実姉）

明るく元気で美人、気だても良く、弟を優しく気遣ってくれる理想的お姉ちゃん。基本的にまともな人で、「現実にこんなお姉ちゃんが欲しかった」と思わせるようなタイプ。

度を超した甘やかしといったブラコン要素はなく、弟の事は好きだが積極的にアプローチをかけることまではありません。ただし、那波姉の場合はそれが似合う姉スタンスなので、問題ないでしょう。

他人の家で姉弟２人、心細い事もあるけど、手を取り合って行こうとする強さも感じられる立派なお姉さん精神旺盛。

H シーンも弟を想う気持ちが中心で、露骨ないやらしさはありませんでした。

那波「頑張ろ」
横から、那波ねえが僕の手をソッと握ってくれた……。
その手から、僕に不思議なエネルギーが流れ込む。
暖かく、幸せなエネルギーが。

・小湊紗葉（先輩メイド）

お屋敷に元から仕えるベテランメイド。

クールでプロ意識の高い女性だが、嫌味な面はなく、愛すべきおねーさん。隠れた意外な面がショッキングで楽しい。攻略は後の方がいいかも。

■短くても楽しめる姉ゲー

目立って不満な点はなく、安心して楽しめる姉ゲーですが、実は短めの作品です。だらだら長ったらしいよりは短い方がいいと以前から言っていましたが、本当に短いのを出されると複雑な気分。しかし、姉ゲーに必要な要素は十分含まれているので、減点にはならない手堅い作りでした。そぎ落とすべき場所を間違えなければ、低価格でも十分通用する良い見本でしょう。

派手さやボリュームはなくとも、堅実に賢く作られた１本でした。

実姉双姦ルート

著者	椿十四郎
出版社・ISBN	ジーウォーク 978-4-86297-068-8
発売日	2008 年 10 月 5 日

■姉妄想のプロが世に放つ1冊

「実姉双姦」の四文字が少々重く感じてしまい、明るくあっけらかんとした姉コミック好きの総裁には合わないかも…と身構えていたら、そんな心配は無用でした。

１話完結の読み切りが全９話、実姉率100%の純正実姉コミックです。和姦オンリーで痛い話もなく、「荒々しいのはちょっと…」という穏健派の諸弟にも安心。登場姉弟はお互い高校生の年齢がほとんどで、家で、学校で、ふとしたきっかけやいたずらから火が付いて、の展開が基本形です。

著者あとがきページによれば、これが初単行本だとか。2006 年から 2 年弱の間にコミック MOOG 誌に掲載された作品を収録したそうですが、(掲載のペースは明らかではないものの）２年で９本の姉モノを描けば量的には立派な姉作家認定。しかも実姉ばかり。これからもよろしくお願いします。

さて、同じくそのあとがきの中で書かれた作者の趣味に強い衝撃を受けました。

「*趣味はアニメやゲームのキャラを自分の姉に見立てて妄想する事です。妹キャラでも姉妄想するのがプロです。*」

負けた。ちょうどこの時期は番組改編期で、新番組に姉キャラが全然出ないと嘆いていた時だったのです。姉がいなければ補完すればいいじゃない。そんな基本的な心構えさえ忘れていた小弟の不甲斐なさときたら！人として、弟として、大事な何かを教えていただきました。

■名話ピックアップ

「ヒロインレッスン」

巻頭カラーページでは、いきなり「横暴なご主人様×いいなりメイドさん」プレイに興じる高校生二人が登場。あれ？本の選択間違った？と思わせられるも、実は演劇部を仕切る姉が用意した衣装で弟とイメージプレイをしていただけだったという軽いオチからスタート。

役者魂溢れる姉は、演劇部の部室で「エルフの女王×彼女に虐げられる男剣士」の設定で行こうと姉弟二人だけの部活動。両手を拘束された弟は、女王役としてすっかりスイッチの入ってしまった姉に言葉責めと足技でもてあそばれるが…。

姉に踏まれる悦びは“ごっこ遊び”の一環として描かれることでマイルドに。日常の部分では、「うるさいわねぇ、アタシの言うとおりにしなさい！」的な困ったお姉ちゃんぶりも見ら

れて、姉に振り回されたい弟好みの性格設定がお上手。

「錠がひらくもの」

学年トップの美人でスタイル抜群、成績優秀スポーツ万能の姉を持つ弟。友人からは羨ましいなチクショオと冷やかされるが、姉は元々おとなしく、最近では姉の隙の無さに目も合わせづらくなっていた弟は、姉貴なんていいモンじゃねえって！と、本気とも照れ隠しとも受け取れる言い方をする。

学校から帰ると、鍵を無くして玄関の前で弟の帰りを待っていた姉の姿。ドアの錠を開けた時、弟の心の内に秘めたものがとめどなく溢れてきて…。

相手のことを嫌っているかのような素振りを見せていた女の子が、実は訳あってそれを表に出せずにいただけ、との王道設定を姉弟間に上手くあてはめて、長い間に募った想いを解放した姉と弟の気持ちが心地よく伝わってきます。

姉ちゃんカワイイ、と姉の身体に夢中になる弟の姿には思わず感情移入。お姉ちゃんが喜んで好意を受け容れてくれる姿にも感動が増すというものです。

「ミステイクナイト」

寝る前に姉のホラービデオに付き合わされた弟。神経が興奮して寝付けないところに現れた姉は…。

ここまでの紹介だと、怖がりの姉がおずおずと弟のベッドに潜り込んで来た、となるのが大抵でしょうが、このお姉ちゃんはどうやら平気なのか、むしろ弟を怖がらせてみたかったんじゃないかと思わせる小悪魔顔。

添い寝する姉が先に寝付いた時の弟のマナー、それはもちろん姉へのいたずら。こちらの弟くんも紳士らしくお姉ちゃんにおいたをして、そして当然バレて以下略となります。Hも姉上位で弟命令されまくりで、ムードよりも普段の姉弟関係描写重視の姿勢は姉作家として正しい選択。

「とらないでマイブラ」

委員会の仕事と称して自宅まで付いてきた同級生の女子。「姉に見つかるとウザいから」と、そっと家の中に案内する主人公はばったり姉に鉢合わせ。自室で同級生に押し倒されそうになれば、あまりにタイミング良く姉が乱入、弟の貞操の危機を救う…。

弟は、そもそもシスコンではなかったかのような印象がありますが、話の中心はむしろ姉の隠れブラコンを楽しむ点にあるので大きな問題ではないかと。

「ケガのこーみょー」

部活で利き腕を折ってしまった姉。両親は弟を姉のお世話役に残して旅行に行ってしまう。弟は姉に食事を作って食べさせたり、体を拭いてあげたり。活発で、普段弟にはワガママを言っていそうな姉が、一旦弱い立場になって世話を受ける方になることで弟の優しい面に触れ、大胆になる姿が見どころ。

めちゃ姉！

著者	柚木 N'
出版社・ISBN	三和出版 978-4-88356-405-7
発売日	2008 年 2 月 20 日

■めちゃ色々なお姉さん達が

著者がコミックマショウ誌で「年上のおネーさん」もの担当として掲載していた作品をまとめたものという１冊。後書きコメントにも「お姉さん大好き」とあるように、登場するのは、掲載順に、義姉／実姉／従姉／隣姉／実姉／従姉／先輩／友人の姉／実姉／義母／行きずりの年上、と１１本全て年上で統一されています。

ただ、帯には「実姉に萌え狂う全ての人に☆」というコピーが踊っていた割に、実姉率は約３割にとどまっていたりします。まあ、姉スキーの大部分は年上スキーなので（姉萌えだが年上萌えではないって趣味はあるのか？）、問題にするつもりはなく、逆にこの豊富なバリエーションが本書の売りの一つと言うべきでしょう。

ヒロインのタイプがさまざまに用意されている一方、シチュエーションとしては、姉・年上からいじられたり挑発されたりして、弟・年下が夢中でかぶりつくスタイルが基本的な方向性になっています。従って、姉に下克上をかましたり、嫌がるのを無理矢理展開はなく、ベッドヤクザに豹変することもないので、従順・無抵抗派の弟向けといえる作品がほとんど。

でも、「年上からのいじり先行に特化すると、すぐに痴女モノに成り下がって萎えるんだよなぁ」とお嘆きの貴弟。ていうか自分。本書に関してはそういう心配はほぼ無用。このおネーさん、なんてエロエロな…と、盛りのついた痴態を思いっきり露わにしながら、事の最中あるいは事後に本音を含んだ優しい面をフッと見せる、そんな描き方がいくつか見られます。ページをめくる前までは肉欲に突き動かされていたような姉が、次のページでは愛情を含んだ顔をチラッと覗かせる。

そんな演出が一つあるだけで、「年上モノ＝痴女」の罠から抜け出せるんです。全てではないにしても、複数の話でそれが出来ている本書は、姉コミックとして合格点。年下に襲いかかって、でもキミの体目当てだけじゃないのよ的な流れは、姉コミックのみならず全ての姉メディアで通用する様式美なのです。

■名話ピックアップ

「ＧＲＡＶＵＲＥ（グラビア）」

奈津川樹里・１７歳は今をときめくグラビアアイドル。しかしその実態は、５歳も年齢詐称するブラコンの姉貴だった…。

姉持ちの弟に聞けば、現実の姉は異性と

しては見られないといった話をよく聞きますが、グラビアアイドル級の姉を持つ弟も同じことを言えるのか。そんな疑問を姉萌え向けに~~都合良く~~答えてくれた話。

グラビア写真ではアイドルらしく振る舞う姉も、弟の前ではバスタオル一枚で無防備に歩き回り、弟が自分の写真を眺めているところを目撃すれば「お姉ちゃんのグラビアで興奮した？」と弟いじり。外では決して見せない顔を自分には見せてくれる家族感は、この手の話の基本です。

世間の目に晒されはじめたことで姉への想いに気付かされ、葛藤する弟の心情がストーリーの柱になっている良作。ブラコンの姉が弟の想いにきちんと応えてくれる締め方も◎でした。

「W・R・A・P」

「姉ちゃんとキスしたいんだけど」と唐突に言い出す弟。戸惑う姉は、ラップ越しならいいわよと、透明な薄い膜越しの口づけ。ラップ越しなら…と、次第にエスカレートしていく姉と弟の関係。直に触らなければ近親相姦じゃないんだからと自分に言い聞かせる姉は、最後まで一言も好きといった単語は発しなくともブラコンなのは明々白々。姉弟間の背徳感が面白い形で表された１本。

「このすばらしき、悪夢のような日々」

毎日毎日、寝不足になるほど精を搾り尽くしてくる従姉の沙希姉は、学校の担任教師。今日も学校の指導室に呼び出されて…。

本書の中ではエロ担当回のような位置で、ストーリー面で特に大きなものはないのですが、それでもきちんと「姉と弟の歴史」のエピソードを挟み込んでいる点が憎い。

たった 20 ページ前後の読み切りに、姉と弟の十年二十年の歴史を詰め込める魔法のテクニック、それが回想シーン。

「お姉ちゃんご帰宅！！」

女同士の飲み会を早々に切り上げて帰るヒロイン。その理由は、オトコが出来たのではなく、二人暮らしを始めた弟（親の離婚で十年以上離ればなれになっていた）が家で待っているからだった…。

空白だった時間を埋めるようにイチャイチャする姉弟が描かれるのみで、ストーリー的には薄いものの、酔ってご帰宅したお姉ちゃんが手慣れた感じで弟を誘惑＆甘え半分に押し倒すシーンは、さながら新婚姉弟の味わい。

弟を待ち受け画面に使うお姉ちゃんに悪い人はいません。

姉 づくし

著者	七瀬瑞穂
出版社・ISBN	マックス 978-4-903491-53-0
発売日	2008 年 3 月 1 日

■Sッ気バリバリ派の著者が

『姉づくし』と銘打つからにはお姉ちゃん満載なのは当然ですが、なかでも実姉にこだわりを見せる１冊。掲載作品１０本中９本が実姉です。(あと１本は教会のシスターもの)

全体を眺める前に、著者あとがきコメントより気になる言葉を抜粋しましょう。

「*実は私自身お姉ちゃん大好きで、同じ嗜好の方に楽しんでいただけるよう頑張りました！*」

「*Ｓ ッ気バリバリのお姉さまにリードされるのってすごく燃えます*」

「*これからも姉好きーな作家として色々なお姉ちゃんを描いていきたい所です！*」

気に入った！その心意気、買った！

作品は上手でも姉好きではない作家が描いた姉コミックと、作品は荒削りでも根っからの姉好き作家が描いた姉コミックなら、断然後者だと思いませんか？見た目のきれいさで手に取らせるところまでは誤魔化せても、読んでみたらものの数ページでメッキが剥がれたなんてことはよくある話で、「好きでもないのに描くんじゃない！」と何度憤慨したことか。

その点、七瀬先生は姉好きをカミングアウトして、姉モノ中心に描き続けていて、楽しく読むことができます。絵が全体的に硬めだったり、ちょっとどうかなというコマが紛れ込んでいたり、キャラ設定が不安定だったりする面も確かにあるのですが、アネスキー読者ならば妄想力でカバーできるレベル。今後一層の成長に期待します。

先ほど紹介した著者あとがきコメントにもありましたが、Ｓッ気強めのお姉さんが登場人物の軸になっています。強め、といっても、ドが付くほどのＳではなく、図に乗って悪さをした弟をしつける時に発動するＳッ気であって、姉自身の不機嫌を弟に押しつけるような理不尽さは無し。クライマックスに至れば可愛い女の子の顔を覗かせてくれて、弟満足感も十分得ることができます。

悪戯をしているのを姉に見つかって「叱られる…！」と思ってゾッとしたい時、姉にのし掛かられて命令されたい時の１冊として常備しておくと幸せになれるかも知れません。

■各話ピックアップ

「姉心」

母親代わりに自分を育ててくれた優しくて物静かなお姉ちゃんは、ある日弟が同級生に告白されている場面を目撃してしまい、ショックを受けてしまう。その夜、可愛い彼女が出来たお祝いをしましょうとつぶやく姉の後ろから弟は…。

この１本目の作品と、続く２本目は甘い

お姉ちゃんが登場。次からはゾクゾクいや続々とＳッ気を含んだ姉貴が出始めます。

「姉とＡＢＣ？のお勉強」

弟の成績の悪さに憤慨する学年トップの姉。弟はそんな姉に対し、勉強一筋の姉さんは男と女の付き合いなんて知らないんだろうと悪態をつくが、それにキれた姉は弟を押し倒し、馬乗りになって…。

ブラコンあまって弟を押し倒す、なんて甘い感じではなく、弟のしつけのためと言った方が正確なＨシーン。

「カゼは安静に！」

既に一線を越えて付き合っている姉弟。雨の中で無理矢理姉を襲った弟のせいで風邪を引いてしまった姉。熱のせいで抵抗できないのをいいことに、座薬を入れてあげるとパンツを下ろすところから弟の悪戯はどんどんエスカレートし、最後はもちろん太い注射を…。本当は強気な姉なのに風邪で体が動かず、姉弟の立場が逆転する流れが見どころ。オチはもちろんお姉ちゃんのきついお仕置きが待っているわけで。

「悪戯でドッキリ」

ソファで眠り込んだ姉を見つけ、日頃姉にこき使われている弟は、なんだかんだで可愛い姉の寝姿に引き寄せられて、エッチな悪戯を始める。いよいよクライマックスという所で、寝ていたはずの姉が…。

学校での姉は清純・可憐で通っているが、家では俺のことを召し使い扱いするとぼやく弟。そこはたった１コマのセリフじゃなく、１ページ割いてでも姉弟間の描写をしてくれれば、ちょっとした仕返しのつもりの弟のドキドキ感や姉に悪戯が見つかった瞬間のドッキリ感は倍増なのに。惜しい。

「お姉ちゃんだもの」

弟の部屋に無断侵入し、ベッド下のエロ本を引っ張り出してはワクワクして読みふけるお姉ちゃんと、やめてくれよバカ姉貴！と反抗する弟。

昔はピーピー泣いていた弟が生意気になっちゃってお姉ちゃん悲しい…などと言いながらも、ますます弟を挑発する姉。「どうして姉とエッチするお話の本ばかりなの？」と鋭い指摘を入れながら体を密着させ始めた姉は…。

先ほどの「寝ている姉に悪戯」同様、定番シチュエーションだけに、もう一ひねりするか雰囲気やセリフ回しに凝って欲しかったところ。この作家の強みは、弟読者を「ヒィッ！」と言わせるような姉の迫力を描ける点にあるので、上手く使えば定番シチュでも光る姉コミックが描けるはず。その意味で目が離せない作家となりそうです。

姉るせっくす

著者	狩野蒼穹
出版社・ISBN	富士見出版 978-4-89421-784-3
発売日	2008年4月5日

■ゆるゆるな姉と弟の日常

狩野蒼穹先生について、今までこの会報や全姉連サイト上であまり取り上げて来なかったことをまずお詫びしたい。好みの問題とかでは決してなく、単にタイミングを逃したとか、その程度の理由なんです。今後は心を入れ替えて積極的にプッシュさせていただく所存です。

さて、狩野先生といえば、「ほんわか・ほのぼの・ゆるゆる・らぶらぶ・ぽわぽわ」といった表現が似合う作風で、成年コミック界では異色の存在。「もっと過激に！もっとエロく！」と競い合う他の作家を尻目に、エッチなんて所詮ゆるい日常の延長にあるものなんだからと言わんばかりにマイペースで描き続けているのが狩野先生です。

そんなほんわか・ほのぼのスタイルと近親モノの相性が抜群なのは自然の道理。赤の他人同士なら、互いに自分を気に入られようと変に意識して気分的に落ち着かないところ、家族である姉弟であれば、同じ部屋に一緒にいても気を遣うこともなく、ゆるい雰囲気が流れるというもの。ふとしたきっかけでお姉ちゃんが弟にじゃれついて、弟も仕方なく付き合っていくうちに、いつの間にかしちゃっている…という展開が狩野作品の基本パターンとなっています。

思うに、狩野先生の作品は、姉と弟の人間関係を描くこと以上に、こんなことをしている姉と弟がいたという「日常」を描くことが最大のテーマであるように見えます。姉弟の住む家を外から見たコマがどの話にも必ず挟み込まれるのも、家が日常の象徴として映るからではないでしょうか。人に注目しすぎればドロドロする。姉と弟の間に漂う、ゆるゆるっとした雰囲気が上手く伝わってくる理由はこの辺にあるのかも知れません。

さて、先生の漫画に登場するお姉ちゃんは、姉御肌やクールさとは真逆の、どこか天然気味で、弟のことは手頃な可愛いじゃれつき相手と思っているタイプばかり。そして、意外なことに、強烈なブラコンと呼べる姉はほとんどいません。極端な言い方をすれば、ブラコンとは弟と愛を交わしたいという欲望を含んでいると思うのですが、ここではそういうメラメラとした欲望を含んだブラコン姉ではなく、弟に仲良く構ってもらえたらそれで十分と思っているようなお姉ちゃんが多いのです。

一方、弟は、どの話でも全部同じ弟と言っても間違いとは言えないほど共通して、「姉の奇行に対して冷静に突っ込んだり、ため息を付いたり、でも流されやすく、姉のお尻にかぶりつくのが大好きな匂いフェチ、合体してからクライマックスまでが超速の微ショタ」タイプ。人並みにはエッチだが、決してガツガツはしない。逆に積極的な姉との対比がコメディになっています。

■各話ピックアップ

「あたしが幽霊だったころ」全５話

突然の交通事故で死んでしまったお姉ちゃん。残された弟と妹は、葬式の最中から浮幽霊となった姉の姿がはっきりと見えてしまう。何か未練があるんじゃないかと姉を問い詰める妹。「やっぱ恋もしないまま死んじゃったのが未練だって思うのよ」と姉。そこで、妹の体に一時的に乗り移り、「一発ヤレば成仏できるかなって」（姉談）。

狩野先生には珍しい、５話に及ぶ中編。

死んだ姉が妹に取り憑き、その妹も兄（＝弟）のことが好きで、Ｈをしてもなかなか成仏できず、一方密かに想いを抱かれている後輩には姉弟で（外見上は兄妹で）Ｈをしている場面を目撃され…。鬱展開にしようと思えばいくらでもできる設定を、明るくコミカルに仕上げています。

お姉ちゃんがなかなか逝けないのはなぜか、弟はお姉ちゃんのことを本当はどう思っているのか。お気楽に進むストーリーの中で、最後はちゃんと答えを用意しておく点も抜かりなし。

「女(姉)は男(弟)で変わると言うけど」

散らかった部屋でエレキをかき鳴らし、自分のことをオレ呼びするボーイッシュなお姉ちゃん。なんでこんなに男っぽくなっちゃったのかなと呆れた弟が、翌日自宅に帰ると、出迎えたのは裸エプロン姿で愛らしい笑顔を振りまくお姉ちゃんだった！

お姉ちゃんが男っぽくなってしまったのも、ある日突然女っぽさを目指し始めたのも、全部弟のため。本書の中では最もストレートに弟に好きと告白するお姉ちゃんの姿が見られます。

「オナ禁お姉ちゃん」
「弟は姉がけむたい」

毎晩二段ベッドで一人エッチがやめられないお姉ちゃんと、人目を避けて吸うタバコがやめられないお姉ちゃん。どちらもしっかり者の弟に頭が上がらず、バレそうになると焦って取り繕う様子がコミカル。

「もんでふやそ～」
「ずいぶんもんだけど」

男の人に揉んでもらったら胸が大きくなると聞いたお姉ちゃん。家に帰るなり、弟におっぱい揉んでやーとせがみ倒す。

弟相手ならと気軽に始めたつもりが、結局最後まで盛り上がってしまう予定調和と、関西弁の甘えん坊お姉ちゃんが見どころ。

夕日ロマンス

著者	カトウハルアキ
出版社・ISBN	フレックスコミックス 978-4-7973-4317-5
発売日	2007 年 7 月 25 日

極度のブラコンで学校でも有名なユウ。実は彼女は、姉弟の関係を越えた感情を弟のヒロに抱いていて……。

姉と弟、そして異母兄妹のトモも交えて、ちょっと複雑な家族模様が展開される異色のラブコメディー。

■ラブコメ感覚の姉コミック

2008 年 10 月からアニメ化もされた『ヒャッコ』が人気を集めているのですが、作者・カトウハルアキ先生（旧名コーヒー先生）の作品に関して言えば、この『夕日ロマンス』の方が全姉連的には断然オススメ。ヒャッコの中心的キャラ・虎子のような、ちょっと思考回路が特殊なために突飛な行動をする女の子が好きならば、なおのことオススメ。ましてやそのキャラが極度のブラコンだったりしたら、これはもう読まざるを得ないレベルとしか言いようがない！

先に弟の紹介から。弟のヒロこと紅緋色は、常識的な人間だが、あまり感情を表に出さない朴念仁で、何を考えているのか分かりにくいタイプ。意外ともてる割に、他人の気持ちには鈍感なきらいがある。姉については普通に仲の良い姉弟程度と思っており、特別な感情までは持っていない。「え？シスコンじゃないの？」とお思いでしょうが、ここではこれでいいのです。

メインヒロインである姉のユウこと紅夕暮姉は、感情豊かで、直情径行な性格の楽しい女子高生。もちろん最大の特徴は、極度のブラコンであること！しかし、思ったことはすぐ口に出すくせに、肝心の弟に対しては面と向かって「好き」とは言えないという厄介な性格。

はっきり告白できないために、それとなく好意を匂わせる姉に無反応な鈍感弟と来れば、行き場を失った姉のブラコンマグマは煮えたぎる一方。ノーマルな弟に対するブラコン姉の片想い…これこそが『夕日ロマンス』のキモなのです。だから、本作は姉弟愛を中心に描いたホームドラマとしてではなく、むしろ姉弟間のラブコメとして捉えて楽しむ方がきっと正しいのです。

好きな弟に好きといえないもどかしさ、空回りする想い、一緒にいるだけで幸せ気分に浸る女の子の姿。さらにはライバルの異母妹まで登場し、話は愉快にこじれて行く。役者も揃って、これから！という所で終わってしまうのだけが残念でした。

和装妖精

Dressed in kimono-Positive

はじめましての方、はじめまして。
2008年冬コミの新刊『全姉連会報10』の
表紙を描かせていただいたRENNOSのキョルノフです。
つたない絵で申し訳ない。
そもそもプロが描くべきである場所に
私の絵が入ること自体が間違っているのであり、
世界が間違っているのでボク悪くないもん。
あと表紙の“先端”がこんな風になったのは
世界の抑止力の所為であります。
ボク悪くない。
でもいつもそんな絵ばかりだと思われるのは
心外なので
清楚な絵も描けるのだということを
知らしめる必要がある。
故にタマ姉の和装なのであります。
ちなみにタマ姉が手にしているのは
『妖精』であることを確認する“薬”であり
これを持って『ポジティブ（ようせい）だった』と
頬を染められたら覚悟を決めることだ。
これをして『和装妖精』と名付けた。
分からなければそれで良いのです。
ただ無知でも『ようせい』は容赦しませんから ネ！
結局こんなんばっかでほんとすんません。

http://www.h7.dion.ne.jp/~rennos/

２００８年、世界経済は金融不安に揺れ動いた一年でしたが、姉業界も景気後退の一途を辿った１年でした。ぽつぽつと良い話やヒット作はあったのですが、前年に比べると勢いが衰えたのは否定できない事実。ま、人生良い時もあれば悪い時もあります。いつの時代も変わらないのは姉の愛。

全姉連のサイトの方では、姉の月（１２月）恒例の「日本姉大賞」の企画を開催しています。今年は王者不在で票が割れています。結果については、開催期間終了後もずっと見られますので、気になった弟さんは一度覗いてみて下さい。

ところで、今号でもう第１０号になります。びっくりです。

単純に１号あたり本文２０ページとしたら、通算で２００ページ超。ちょっとした一冊の本ですね。我ながらよく書き続けているものだと感心。そろそろこの熱意に天の姉女神様も心を打たれて、一人くらいお姉ちゃんを与えてくれても良い頃だと思うのですが、一向にその気配はありません。

今は基本的に姉ゲー＋αの構成で作品を取り上げていますが、こういうジャンルや方向性で書いて欲しいなんて希望があれば下記の連絡先まで送って下さい。同じ書くなら、希望の多い方に合わせて書きたいので。何か一言などもあればお気軽にどうぞ。あ、あと、お姉ちゃんが余っている人、お姉ちゃんになってあげるよ、という連絡もお待ちしています。切実です。

全姉連会報 第１０号

発　行： 全姉連 総本部
発行日： 2008 年 12 月 30 日
著　者： 全姉連総裁
連絡先： so-sai@zenaneren.org
表　紙： キョルノフ様（RENNOS／全ママ連主宰）
印　刷： 株式会社ユリクリエイト様

全姉連総本部 http://www.zenaneren.org/
(mobile : http://www.zenaneren.org/a.cgi)

本書発行に至るまで、全姉連を通じて多くの同志から姉ゲー情報を頂きました。
ここにお礼申し上げます。

全姉連 総本部
-the world's largest organization of elder sister geeks
www.zenaneren.org